

平成21年度第5回 下山地域会議 会議録
(地区区長会・コミュニティ会議との合同会議)

【日時】平成21年8月20日(木) 19:00～21:00

【場所】下山交流館多目的ルーム

【出席者】地域会議委員 13名出席 2名欠席

区長 全員出席 コミュニティ会議 2名出席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 意見交換会

(1)地域自治システムについて

(2)分科会ごとの活動報告と地域予算提案事業について

(3)その他

5 今後の予定

第3回たべてみりん！料理コンテスト実行委員会

第6回地域会議

下山地内産地直売所連絡会

6 わくわく活動日程

三巴で集う会 ・ 花山自治区

【内容】

1 あいさつ

(地域会議会長)みなさんこんばんは、合同会議を開催するにあたり、地域で活動されている区長、コミュニティ会議の方からご意見をいただき大変有意義な会議ということで継続して行っている。

(区長会長)こんばんは。それぞれ3つの団体が計画をして進めておりますので、横でつながってより良い活動になっていくと良いと思っていますので、よろしく願いいたします。

(市議)こんばんは。今日は下山のこれからのまちづくりを中心に核になって進めていただく皆さんの集まりで、3つの団体がお互いに協議をし、進めていただきたいと思います。

(支所長)こんばんは。地域会議からの提案ということで、ご意見いただき、区長会、コミュニティ会議などの後ろ盾がないと難しいため、ご理解をいただきたいと思います。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 意見交換

(1)地域自治システムについて

(事務局)事業計画案の作成から地域合意の部分にあたる。地域合意の一環として、意見をいただ

きたい。

(2) 分科会ごとの活動報告と地域予算提案事業について

(事務局) 今年度の地域予算提案事業について報告。食による地域活性化事業で「下山食彩賞」料理コンテスト作品を募集している。子育て支援環境づくり事業ですが、公園整備で区長・組長にお願いし調査してもらったのを集計しているところですが、子育て支援に関するマップを作って活用してもらうために、子育て支援環境づくり連絡会を開催し、こども園の園長、父母会、社協、交流館の方々と検討、情報交換をし、現在進行中。

(会長) 意見ををお願いします。子ども分科会。

(委員) 今年度予算30万でマップを作り活用する。分科会で、お母さん達がお互いに触れ合う場所と、子どもが遊べる公園があるといいのか、2つの内容のアンケートをしている。市への要望があるが、時間がない中で地域に説明をし合意を得なければならない。

(事務局) こども園のお母さん方には、公園や遊び場が必要かと共に、お母さん達同士の出会いの場はありますかというアンケートをとっている。

(会長) 質問など良いでしょうか。

(コミ) アンケートをしたが、どこに作ってもそこまで行くのに大変で、結局行かなくなるのではないか。公園があれば親子のふれあいも生まれるのだろうが、集まって情報交換したりする機会を作ることは公園ではなくてもできると思う。

(区長) 松坂屋の9階に親子広場がある。外の公園ではなくても室内の狭い中で子どもが遊んでいて親がコミュニケーションを図っている。まどいの丘や支所等の室内の場所を作ることから始めたら良いと思う。

(委員) まどいには既に設備がある、もっと知ってもらい情報を提示しながら、内容を充実した方がよいと思う。

(委員) まどいの丘の遊び広場で月に1回、子育て中のお母さんがグループを結成していて、何年も前からやっている活動がある。それをマップで公開しようと盛り込んでいる。

(委員) 香恋の館の芝生広場が良くなり、ボール遊びもでき、親子でよく来ている。地域内外の方と触れ合い交流ができる。まどいの丘には屋内、巴ヶ丘小学校の屋外に施設がある。花山小と大沼小と3つの小学校を同じように支援しながら遊び場を作れば、より多くの方と交流が深められる。あるものを活かす活かし方をした方がよいと思う。

(事務局) お母さん達のアンケートから、どうして知り合いになったか、講座に参加する、健診に行き同じ世代の子を持つ母と知り合う。村時代にゆりねっこという教室があり知り合ったという結果がある。交流館で講座をしても皆が参加するわけではない。健診・教室など何か目的があるから、人を配置するだけではなく人寄せをする何かをソフト事業として考えなければと思っている。

(会長) いろんな意見を参考にしてください。続きまして農林業分科会。

(委員) 産物直売所を活性化したいと進めてきた。実際に直売所をやっている方から意見を聞き、直売所連絡会という組織を作るために会議を数回開き意見交換をしている。来年度への予算付けと、直売所がわかりやすいマップとのぼり旗を考えている。

(会長) 直売所連絡会に参加されている方は。

(委員) 産直9箇所の方。

(会長) それらがわかるマップを作り、旗を立てて、やっていく。

(委員) 大沼で毎月第4日曜日に朝市を始めている。同じ旗をたてたりネットワークを組んで、やりたいと思っている。個々でPRするのは大変なので、皆で協力してやれたらいいと思う。

(委員) マップに載せたりすれば、次の店に行ってみようということにつながる。

(市議) 日曜日だけ射撃場へ持って行って販売しているが、完売に近いほど売れる。

(委員) 商売として成り立っている所もあるので、皆が気軽に出品でき、何とか売ればいいという所から始めていきたい。直売所のやり方については、地域会議で言うところではないので、皆の連携をとり情報交換をしながら活性化ができればと思う。

(会長) 独自のやり方をそのまま活かして、取り組んでいきたい。続いて、みりん分科会。

(委員) 第2回も継続して料理コンテストを開催、地産地食を続け、実行委員会形式で行っている。住んでみりんプロジェクトで、定住について考えていきたい。自治振興課で空家・空地調査が行われている。自分達の集落が過疎の状態にあるのかという意識付けをするため、資料を提出すると共に聞き取り調査をしていただきたい。自分達の地区を考えていただき、定住希望の地域に手を挙げてもらい、その集落に検討会を立ち上げ、下山地域全体として連絡協議会を作り、共通認識を持ち効率的に事業を推進できるようにする。平成22年の地域予算提案事業として、基礎調査、ワークショップなど今後検討し、地域の情報を整理し受け入れるための体制を作っていく予定。

(会長) 集落ごとに将来自分の地域の人口が減ることをわかっていただき、その上で集落ごとに考えていただく情報を投げかけて、みなさんに考えていただきたい。

(区長) 現状は今しか見ていないから危機感はない。先を考えると、奥の方は何年間後には限界集落になっていくが、何かあれば若い者が帰ってくるから危機感がない。空家はあるが貸さないという話も聞くため、中を直して貸して定住までもっていくのは難しい。

(事務局) 過疎対策プロジェクトに支所職員も入り自治振興課で動き出している。行政が頑張ろうと思っても、地域の人達が自分達で危機感を持って何とかしないと、と意識する部分を今回行っていただきたい。まずは自分達の集落どうなんだ、今でいいのか、人口が増えてほしいのか、といったことを考えてもらうことを第一歩としてやっていきたい。

(会長) 第一段階をまずは進めていきたいので、お願いします。

(事務局) 住んでみりんの件で提案ですが、資料に他地区の事例が載せてある。地域会議・区長会含めて、まちづくり協議会があり、一緒に定住の関係の勉強会をしたいと思っている。地域が頑張っていて、どういうことをやって成功したという、カウロゲ地区の梶さんと農山村交流ネットワークの山本さんに来ていただいて、事例発表・意見交換をしたいと思う。〈委員了承〉

(会長) 以上で会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。